

<b>Title</b>	聖学院大学総合研究所カウンセリングセンター第2回「自殺予防と自死遺族支援の現状と課題」：自殺未遂とその家族、および自死遺族をどのように支援するか 実施結果 アンケート集計結果の概要(総合研究所 News)
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-1
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2217">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2217</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

# 総合研究所 News

聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター  
第2回「自殺予防と自死遺族支援の現状と課題」  
—自殺未遂者とその家族、及び  
自死遺族をどのように支援するか—  
実施結果—アンケート集計結果の概要—

自殺者が年間3万人を超え、国は自殺対策基本法を制定した。しかし、自殺未遂者及び、その家族と自死遺族支援については、まだ十分なされてはいない。彼らを支援するためには、自殺に対する偏見を除去する啓発運動、正確な情報提供、相談機能の充実、法的整備などを行う必要がある。今回は特に具体的支援を充実させるために何ができるかということを考えるシンポジウムを開催する。

日時 2010年3月20日（土） 14：00～16：30

場所 大宮ソニックシティ 601会議室

## 【プログラム】

主催者挨拶、講師紹介

阿久戸光晴（聖学院大学学長）

## 講演

「われわれは自殺未遂者及びその家族と自死遺族のために何が出来るか」

斎藤友紀雄（日本のいのちの電話連盟常務理事）

「自殺報道からみえてくるもの」

江頭俊吾（NHK首都圏報道センター記者）

「自死遺族支援のため自助グループを立ち上げたとき気づいたこと」

明 英彦（自死遺族とうきょう自助グループみずべの集い）

「埼玉県の取り組み—自殺予防対策について」

宮田明宏（埼玉県保健医療部疾病対策課精神保健担当・主幹）

「自殺未遂者及びその家族と自死遺族の苦しみ—精神科外来から見えること—」

平山正実（聖学院大学大学院総合研究所教授、

カウンセリング研究センター長）

シンポジウム

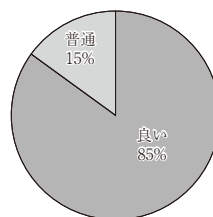
質疑応答

司会 山本俊明（聖学院大学総合研究所部長）

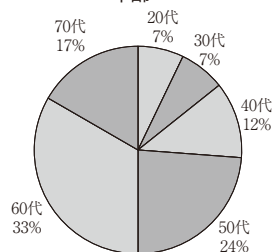
## 【結果の概要】

- ・参加者の人数は60名定員に対して71名。内アンケート回答者は43名。
- ・シンポジウムについて、「良い」が85%と高い評価だった。
- ・自由意見として、「今回の企画は良かった」「現状を知ることが出来、良かった」「参考になった」「時間が短い」など。

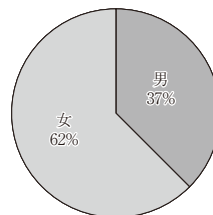
講演について



年齢

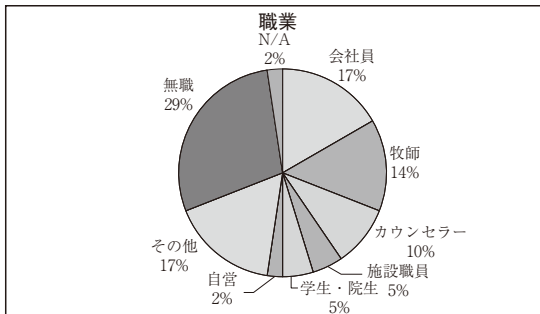


性別

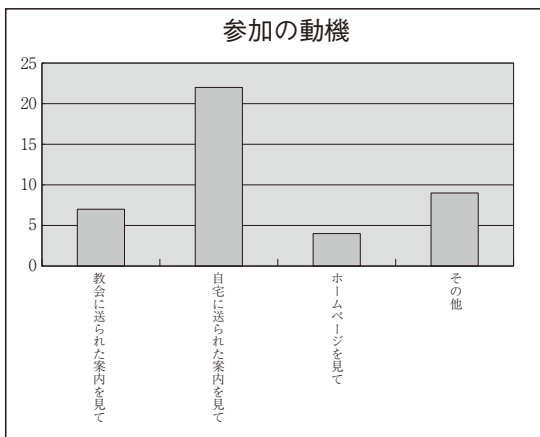


\*参加者の年齢は、「60代」が最も多く、次に「50代」「70代」となった。

性別は「女性」が6割を占めた。



\*職業別には、「無職」が29%、次に「会社員」が16%、「牧師」が14%となった。「その他」の内容は、「主婦」「教育主事」など。



\*参加の動機として、「自宅に送られた案内を見て」が最も多く、次に「教会に送られた案内を見て」。「その他」として、「研究会に出席して」「友人の誘い」「知人の紹介」「牧師の勧め」など。

## リクエスト

- ・江頭俊吾
- ・自殺に関わる現状から継続的開催が必要。
- ・予想される話ではなく、意外な事の報告。隘路とその克服事例。
- ・グリーンケア・プログラムの実際について
- ・柳田邦男、武藤圭子
- ・平山先生
- ・Gate Keeperの体験談
- ・柳田邦男

## 自由意見

- ・自死問題を個人の問題としてでなく、社会的な対策として考えられ始められた現状がよくわかりました。そしていのちを支えあう社会を築くための啓発として、今回の企画は非常によかった。
- ・二次被害保護法(仮称)の立法化を賛成します。
- ・中途障害を負った方の家族会のお手伝いをしています。自殺未遂が原因で障害を持った方もおり、身近に娘さんを亡くされた方の相談にもなっています。どの様に支援や心の支えになったら良いか、今後その様なお話も伺えたらと思います。
- ・参考になる講義や勉強会のような内容も一般向け(初級的内容)にあると良いと思いました。ありがとうございました。
- ・初めての参加でしたが、良きお話を聞くときを与えられ、ありがとうございました。通院している人もいる事に“なるほど”と思いながらもびっくりした。
- ・行政の職員として、地域で自殺予防に取り組む上で参考になればと思い、参加しました。民間、企業、行政などあらゆる立場から取り組み、連携して予防対策に努める必要があると痛感しました。
- ・ふと感じているのですが、日本という国は本当の意味で“個人”が存在しない国に思います。“自殺”の様な悪い(暗い)案件はすべて“個人”の出来事(こういう場合にのみ“個”が登場する)ととられ、良い事は企業、団体への得点につながり、評価の対象となる。弱さを克服出来たときが、本当の強さに思うので、辛い気持ちを吐き出せる様な場所、チャンスなどを公私両方の団体で提供していただければよい状況に繋がるのではないかと考えます。
- ・明さんの講演の中に意見が出た際、制止したり、フォローをする方がいなかったことに心が痛みました。自死対策、予防を考える際に、最も貴重なお話だと思いますので、その点だけ残念だと思います。
- ・自殺者が年間3万人を超える日本という国の課

題として、自殺予防と、自死遺族支援があると思う。年間3万人の自殺者が出る社会が良いはずがない。自殺が出るという事は、社会に生きている市民が苦しいという事だと思う。だから今の日本の政治を良くしていかなければと思う。と同時に神なき日本社会において、個々人が「生きる」という希望を得られる哲学や理念を知識人は考えていかなければならないと思う。働く人々や、虐待、暴力を受けている人々への心の相談をして、自殺予防をするとともに、自死遺族へのケアが新たな自殺者を防ぐと思った。

- ・アメリカで出された「プアホワイト」という書の中に、貧しいといわれているアメリカ人の生活は、第3世界の普通の暮らしより豊かなものだと書かれたくだりにハッとしました。人々の当たり前のこと、状態、価値観が全く異なること。まわりを見渡したときに、自分の暮らしはこうでなくてはならない。ねばならぬ思い込みが自分を苦しめる。私たちのプライドはあまりに世間の規範、考え方に左右される。何故仕事を失うことが存在価値の喪失なのか。何故ホームレスになってはいけないのか。一日一日食べるだけで精一杯の国では、その状況が自死の理由にはならない。まさにdoingの世界である。私たちはどうなるうとも、being存在と肯定的なことが出来れば、どんなにか平安になれるだろうか。命を頂いているだけで平安だと思える。能力—それをいかに私たちは取り戻すことができるのか?価値観をひっくり返す。押し付けられてきた価値観を本当にそうなのか?と思う、考える



定員を超える入場者で満席となった。

必要性を感じる。

- ・「変わることの恐れ」「けじめ」江頭氏も、平山先生も、日常生活の変化に弱い人間性を感じる。我々はいかに変化を受け容れられるのか?—それも考えたいと思ったことだった。なぜ「変化」に弱いのか?
- ・民族のメンタリティーに対し、どう政策を立て得るか。  
樹海や阿蘇に飛び込むのではなく、周りにも被害が起きるので防止すべきこと。  
平成10年から増して（国はもちろん例えば埼玉県も国が動くまで遅れたと言えよう）平成18年まで県や国全体で何人の死を放置したのか、反省すべきであろう。戦争でも日本人は生きようとしな。
- ・隣の方が3年前に自殺して驚きました。一週間くらい前に元気づけられたのになぜ。後で近所の人に聞いたらうつ病だったとのこと。又、介護施設に入り24万円支払い、2人の子どもに支援を受けている。15万円位の施設は40名待ちという。話を聞いたりしていますが、現実の厳しさに困っています。私も心配しています。
- ・各々の発表の時間が短く、残念でしたが、レジュメがきちんと書かれているので持ち帰り、参考にしたいと思います。ありがとうございました。
- ・現在、息子さんを自死で亡くされた友人とメール交換中ですが、時々対応に苦慮することがあり、支援の大切さと同時に難しさを実感し、少しでも支援の参考になればと思い参加しました。
- ・江頭さんのお話、もっとじっくり聞きたかったです。自殺は誰にでも起こりうる死…と、社会全体に伝えていくには、マスコミの力は大きいですね。でもどうやって扱って分りやすく伝えるかは、本当に難しいと感じます。期待しています。がんばって下さい。  
埼玉県のデータはとても貴重な資料です。男性が18年からぐんぐん伸びている。男性のみの「原因別自殺者数及び割合」も興味があります。男性は特に「自分が困っている、助けてほしい」とは言っていないので、そうした方が「そうだ、相談してみよう」と思える場や雰囲気はどうし

たらつくれるかが課題でしょうか。周りの人が気付かないくらい孤立している人も多いですね。こうした社会から孤立している男性、たとえば男性の一人暮らし、過労、借金などがある方への効果的な支援、相談先へのつなぎ方があればぜひ伺ってみたいです。

平山先生のお話から自死遺族の後追い自殺を防ぐためには、メンタル面の支援はもちろん、生活面での支援も大変重要になるのだと考えさせられました。行政、民間での支援が必要ですね。ありがとうございました。

- ・ 3万超の人の自死、その家族がある中で経済状況とリンクしてしまうこの国のあり様について考えさせられます。ありがとうございました。
- ・ 島根県の離島で障害福祉サービス事業所にて活動しています。自死を考えている方、また遺族の方と関わる機会が少なくありません。私自身の実弟も25年前に自死しています。島においてもこの事ともっと関わる必要を感じています。2010年度、他のスタッフと共に学び、活動していきたいと思っています。ありがとうございました。
- ・ 様々な立場のお話が聞けて良かったです。報道関係者のお話が特に興味深かったです。質疑応答も含め、もっと長い時間で開催しても良いのではないのでしょうか。
- ・ 自死を減らすべきだと日頃思っていますが、個々が出来る事は限られているので、とりあえず自分が死なないように気をつけています。
- ・ 深い題であり、表に出さない人が多い、触れて欲しいが、触れられたくない、難しいことです。
- ・ 現状をもっと知りたかったのでよかったです。
- ・ 皆様の現場より生の様子を拝聴出来感謝します。
- ・ 発題者が多くて一人の持ち時間が短かった。全体の時間をあと30分延ばすか、発題者の人数を絞るかの方が良かった。とても良いシンポジウムでした。
- ・ このような講演で、司会の方が許している時間の延長に対する参加者の発言は非常に講演の雰囲気破壊するものであったと思う。司会による時間のコントロールが必要と思われる。
- ・ ありがとうございました。

- ・ 案内をまた送って下さい。
- ・ 関連図書の販売があってもよいのでは？と思いました。
- ・ 講演とは別に人の話し声が聞こえて、気持ち悪かった。落ち着かない。



5人の講演者によるシンポジウム